

特別講演 2

「高齢者のポリファーマシー」

東京大学大学院医学系研究科 加齢医学（老年病学）教授

秋下 雅弘 先生

ポリファーマシーは、単に服用する薬剤数が多いこと（多剤服用）ではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下等の問題につながる状態である。高齢者は多病のため多剤服用、かつ認知症などで要介護状態にあることも多く、これらの問題が顕在化しやすい。従って、高齢者総合機能評価（CGA）などを用いて患者の病態、生活、環境などから包括的に適正処方を判断し、多職種で対策を講じることが求められる。日本老年医学会のガイドライン、日本医師会の手引き、厚労省の指針が策定され、さらに診療報酬でも対策が保険点数化されるなど、まさに国を挙げてこの課題に取り組もうとしている。

講演では、これらの指針策定の経緯、今後の展望を含めて、高齢者の薬物療法のポイントについて概説する。